



うげつものがたり
雨月物語 うえだあきなりちよ
上田秋成著

5巻5冊 安永5年(1776)刊

縦 22.5 cm 横 16 cm

上田秋成は享保十九年（一

七三四）に大阪で生まれ、青年期を放蕩無頼の生活を送りながらも俳諧を学び、国史を説き、歌を詠み、国学を学んだ。一時は医者をするが、五十四歳の時、病のため大阪の淡路庄村に隠居。以後定業につかず、文筆に従い学問に遊ぶ文人として生きた。

『雨月物語』は安永五年（一七七六）刊。口語で書かれた中国の白話小説を我が国の古典や故事と融合させた怪異小説集だが、執念の悲しさや恐ろしさが描き出されていて、怪異を超えた人間の生の諸相を描いている。

掲出図は全五卷九篇のうち、

「蛇性の姪」の挿絵。ある日豊雄という男が真女児という美女と出会い、すっかり心を奪われ結婚する。旅の途中神社の人に真女児の正体は恐ろしい蛇神だと見破られ、真女児は逃げ出す。しばらくして豊雄は富子と結婚するが、富子は真女児にとりつかれてしまう。つれない豊雄を真女児は富子の姿でなじる。豊雄は僧侶に祈禱を頼むが、僧侶は真女児に破れ死んでしまう。豊雄は真女児に、自分を好きにしていいから富子を助けてくれと哀願する。今度は別の和尚から与えられた袈裟で真女



児を取り押さえると袈裟の中で富子と三尺もの大口を開けた大蛇が気を失っていた。鉢に封じ込め、寺に埋めて蛇塚としたという話で、人・豊雄と蛇神・真女児との恐ろしくも哀しい愛の物語である。

なお、本館では十月十九日～十一月十五日まで「秋成―上田秋成没後200年によせて―」展を開催する。

（天理図書館 西林 淳）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
 ただし10月18、26、30日は休み 上記「秋成」展の10月25日（日）15時から
 筑前琵琶演奏会「秋成世界を語る」を開催